

# 資料室

# ニュース

Vol. 28

2006年2月27日発行

災害初期の緊急時には、救援物資は欠かせません。新潟中越地震でも、全国から救援物資が送られてきました。阪神・淡路大震災の教訓は活かされたのでしょうか？ 震災資料を通して、救援物資について考えてみましょう！



## ～ 震災を伝える一次資料から ～ NO.3 救援物資

阪神・淡路大震災では、震災直後の食糧、毛布など、緊急物資の確保は最重要課題でした。被災地の要望に応じて、国内外から大量の救援物資が送られてきました。救援物資があふれる一方で、渋滞や人出不足のため配送に遅れが生じ、仕分け・集積などに混乱が生じました。物資の受け取り・配送の計画的な実施が困難な状況でした。

そうした中で活躍したのが、ボランティアです。行政職員らと共同で、救援物資の搬入・搬出、仕分け作業を行ったり、手が回らない避難場所や個人への配送などを行いました。



避難所となった小学校で、救援物資を使って、食事を配給している様子。



行政職員、運送業者、ボランティアなどの協力で、大量の救援物資の搬入・搬出が可能となった。

救援物資は、水、乾パンなどの食糧をはじめ、台所用品、衣料、暖房、医薬品、電化製品など様々です。被災地の物資のニーズは、日々変化していきました。避難所の状況や避難者のニーズを十分に把握できず、物資の過不足が生じることもありました。

ボランティア団体や避難所が作成した「救援物資一覧表」や「配分表」などからは、当時の刻々と変化する物資のニーズやどのように物資が使われたかを垣間見ることができます。

## 人と防災未来センター所蔵の救援物資に関する紙、モノ資料

救援物資に関する一次資料（原資料）は、主に避難所、仮設住宅やボランティア団体などから提供されたものです。センターには、支援者やボランティアが作成した物資ノート、在庫リスト、救援物資の輸送計画、配分計画、礼状などの紙資料が多数収蔵されています。ボランティア団体の中には、仕分けの手順の提案をするなど、経験をもとに、次第に専門的かつ効率的に物資の配送・配分が行われるようになったことが資料から見てとれます。

また、センター所蔵のモノ資料には、避難所などで配給された発砲スチロール製の皿、毛布、歯ブラシ、缶詰、粉ミルクなどがあります。

「救援物資集計表」(西宮市用)  
(1995年1月17日～1月29日)  
提供: 日本赤十字社兵庫県支部

時系列で「救援物資」の配給状況がわかる資料です。震災直後は、水やおにぎり、毛布の需要がほとんどですが、1週間後には、タオル、肌着セット、紙オムツなど多種多様な物資が配給されており、ニーズの変化がわかります。

他の資料もインターネットで検索をしてみよう!



かわら版NO.5「あります、やります」  
(1995年2月25日号、阪神・淡路大震災地元NGO救援連絡会議発行)  
提供: 神戸YMCA

ボランティア団体から提供された資料に多数含まれていた情報紙。救援物資情報を震災初期にはほぼ毎日掲載。支援活動をする上で、貴重な情報源になっていたようです。



発砲スチロール製の皿

いつか震災の教訓として役立てたい、と大切に取っておいたもの。神戸市立摩耶小学校の避難所で家族3人分配給されました。

提供: 渡辺勝則氏

## 海外からの救援物資も

世界各国からも心温まる救援物資が次々と送られました。兵庫県には、世界72カ国（地域）7姉妹州省の政府、企業、民間団体や個人から、水、食料、防寒具、防水シート、テント、激励の手紙など200件以上が届けられました。

センターでは、歯磨き粉（中国）、警ら用バイク（イタリア）、寝袋（台湾）などを所蔵しています。



歯磨き粉  
(中国からの救援物資)

提供: 渡辺勝則氏

### <参考文献>

- ・「阪神・淡路大震災復興史 第1巻」(1997年、兵庫県企画、震災復興調査研究委員会編、21世紀ひょうご創造協会発行)
- ・「阪神・淡路大震災 - 神戸市の記録 1995年 - 」(1996年、阪神・淡路大震災神戸市災害対策本部編、神戸都市問題研究所発行)
- ・「阪神・淡路大震災 被災地“神戸”の記録」(1996年、1.17神戸の教訓を伝える会編、ぎょうせい発行)

## 阪神・淡路大震災から学ぶ救援物資の送り方、受け方、配り方とは？

『物資が来たぞう!!考えたぞう!!』(震災がつなぐ全国ネットワーク発行、筒井書房) <5-C ポラ 16547>より抜粋

### 救援物資を送る人へ

- ・物資よりは、なるべくお金を送りましょう
- ・現地が必要としている物を確かめてから送りましょう
- ・地域や学校・職場で集め、数量をまとめましょう
- ・段ボール単位で品物別につめましょう
- ・なまもの、賞味期限の短い食品などは原則として送らないようにしましょう
- ・古着はクリーニングをしてから送りましょう

### 救援物資を受け取る人へ

- ・被災地外へ必要としている物と数量を明確に伝えましょう
- ・救援物資をどこに送ればよいのか明確に伝えましょう
- ・いつまで必要なのかを明確にしましょう



### 救援物資を配布する人へ

- ・平等に配布できないこともあることを理解しましょう
- ・みんなにこころよくお渡ししましょう
- ・子どもや女性・高齢者に対する配布の方法を工夫しましょう

## 新着図書



題名	著書	発行者
視覚障害者被災者の10年	NPO法人 神戸アイライト協会編	NPO法人神戸アイライト協会
震災神戸の片隅で	森田久一	日本文学館
揺れる心	大熊英美子	碧天舎
激震小千谷発挫けない!	藤田徳英(小千谷新聞社)	パロル舎
新潟県中越地震における『迷彩服の隊長』奮闘記	須藤眞啓	日本法制学会
中越大地震	長岡市災害対策本部編	ぎょうせい
津波とたたかった人	戸石四郎	新日本出版社
トイレが大変! 災害時にトイレ権をどう保証するか?	山下亨	近代消防社
台風23号災害と水害環境	植村善博	海青社
水害の世紀	森野美穂監修	日経BP社
図書館が危ない!	神谷優(一級建築士)、西川馨監修	エルアイユー
防災から見た季節と天気	富沢勝	誠文堂新光社
台風	渡辺博栄	数研出版
疎開児童が調べた東南海地震被災の記録 昭和19年12月7日	浅場ケイ子	新風書房

## 阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会開催

「震災資料の共有」をテーマに議論

1月30日、人と防災未来センターで、「第5回阪神・淡路大震災の保存・活用に関する研究会」（神戸大学文学部地域連携センター主催）が開催され、「震災資料の共有」をテーマに話し合いました。



震災資料の収集・保存の課題について話し合う参加者

参加したのは、震災資料関連機関の職員や大学教員ら約20人。まず「資料保存ネットワーク」事務局長の松下正和さんが「丹波の災害史」と題して講演。丹波地域における水害や旱魃などの記録や住民の対応、災害文化の伝承のほか、歴史資料の保全状況や2004年台風23号による資料の被害などについて、説明しました。

その後、「震災資料の今 - 震災資料の共有にむけて」と題して、センター資料室資料専門員から震災資料の公開に関する運用基準の策定や整理手法などについて報告しました。資料整理方法の共有化や震災資料ガイドのあり方など、参加者同士で意見交換をしました。

### ご協力ください

資料室では、阪神・淡路大震災とその復興に関連するピラ、チラシ、ミニコミ紙などの紙資料、写真、映像、録音テープなどを収集しています。震災資料に関する情報もお寄せください。

### 閲覧できます

資料室では、阪神・淡路大震災に関する資料を検索・閲覧できます。

## 壁面展示のご案内

「阪神・淡路大震災の資料と資料室  
～人と防災未来センター所蔵資料の歴史～」展

期間：2006年3月31日（金）まで  
場所：センター資料室（防災未来館2F）

人と防災未来センターが所蔵している震災資料の収集経緯や、資料の活用、現在も行っている収集活動について触れながら、避難所や仮設住宅などのテーマごとに震災資料や図書資料の概略を紹介します。



震災資料を地域、学校などでぜひ、ご活用ください！



資料室（2F）は無料スペースです。

### 資料室ニュース vol.28

発行日 2006年2月27日  
発行 阪神・淡路大震災記念  
人と防災未来センター 資料室（2F）  
〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2  
TEL：078-262-5058 FAX：078-262-5062  
HPアドレス：<http://www.dri.ne.jp>  
開室時間 9:30～17:30（7～9月は18:00）  
閉室日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）  
12月29日～1月3日